

常総線の活性化が市の発展に

市長が公約に掲げていた常総線の活性化とつくばエクスプレスの相互乗り入れや電化の状況について



には、常総線活性化支援協議会を立ち上げ、地域の発展に向けた活動などを推進してきた。しかし、期成同盟会は解散し、現在は協議会が利用促進事業を継続し、活動は沿線自治体のPRなどに移行している。神達市長の就任後、沿線自治体5市長と検討会を行い、連携のもと方向性を含め、スピード感を持って進めていく。

議員

自分も親しんできた常総線で、鉄道の駅があるなしではその土地の地価も変わっていく。その地域の経済力の評価にもつながってくる。このようなことから電化や相互乗り入れという施策をどんどん進めていただき、地域の活性化につなげていただきたい。また守谷市の理解と協力を得て、早期実現に向けて連携をとっていただきたい。市長にこの公約の思いを聞きたい。

市長

7年前、県議になった時からこの公約であり、県議会でも再三再四質問し研究を重ねてきた。人口減少や鉄道配線などの危機感から、この課題にライフワークとして進めている。今後は沿線自治体一体となった運動で、経済界も含め展開していきたい。

総務部長

平成3年に沿線自治体の首長、議長、県議、商工会長などで構成される常総地域振興促進期成同盟会を設立し、電化や乗り入れについて議論してきた。17年

議員

以前、中学生議会でも子ども達が高い興味を示して質問を行ったように、これは世代を超えて関心の高い内容である。この公約について、どのような準備を進められているのか、現在の進捗状況を尋ねる。

連携してスピーディな対応を

市内冠水対策について



報や道路パトロールにより情報収集を行い、状況に応じ通行止めなどの措置を実施している。

議員

その原因となる現象が確認され、水が引いた後で上流、下流周辺の付随する設備についての対策や点検、巡視というのも行っているのか。

道路維持課長

水が溜まるのも早いですが、引くのも早い。このような現状であり、当課では、側溝の汚泥の滞留状況、勾配の状況などの調査をし、それに合わせて順次対応している。今後、全体計画などを作成していくのが最善と考える。

議員

一部分の勾配を解消しても、流れの全体を見ないとまた発生する可能性があり、基本は下流からが原則である。この冠水問題だけでなく、役所に寄せられるさまざまな要望など、一つの課だけで解決できず、横ぐしを通してスピーディに、より確実に解決できるように形をとっていただきたい。

都市建設部長

一課では対応しきれない事案もあり、市長の指示にもある、横の連携を密に進めていきたい。

都市建設部長

昨日、市内に限らずさまざまな地域において、以前には想定できなかった災害などが取り上げられる時代になった。市内においても冠水の問題が発生している現状で、市内冠水箇所と把握状況と対応を聞きたい。

議員

市内においても、台風や局地的な集中豪雨など短時間に雨量が増加し、道路の排水機能が追いつかず、降水状況にもよるが市内には20カ所以上の冠水箇所が存在している。市民からの通

堀越 輝子 議員

関 優嗣 議員